

第21回 軽井沢22世紀風土フォーラム基本会議

【日 時】 令和2年6月24日（水） 14:00～16:00

【場 所】 軽井沢町役場 第3・第4会議室

【出席者】 基本会議委員：石山武委員、鈴木幹一委員、須永久委員、
瀬川智子委員、高尾幸男委員、中嶋聞多委員、
藤井俊子委員、飯塚真由美委員、高橋浩志委員、
荻原貴士委員、小林広幸委員、瀬原史織委員、
森憲之委員、柳澤陽平委員

内 容

1. 開 会

【導入】

ファシリテーター

コロナ禍により基本会議においても、間隔を空けて座る、一般の方の傍聴を遠慮いただくなどのこれまでとは違う会議形態となっている。日本全体においても、分散型社会、首都機能移転等に関する議論や「開疎」というキーワードが出てきており、過去を振り返り未来を見通して考え行動していく風土フォーラム的アプローチが求められている。

自走型での風土自治の実践に向けては、ゼロベースで議論していただく局面にあると思う。皆さんには忌憚のないご意見をお願いしたい。

2. 町長あいさつ

町 長

3月に開催された第2期最後の会議では、委員の皆さんの感想等を

興味深く拝聴させていただいた。第3期基本会議が始動するにあたっては、アフターコロナによる観点からこれまでの形を変えて活動を進めていくことが求められる。

基本会議、プロジェクトチーム（PT）、エリアデザイン検討を並行して進めてきたところである。エリアデザインにおいては、新軽井沢、中軽井沢エリアでは昨年度より検討を進めており、追分、旧軽井沢、南の3エリアについても今年度より活動を行っていく予定である。住民の皆さんには、自主的、精力的に地域の将来について検討を進めていただいているところであり、まさに「自走」であると捉えている。

基本会議においては、基本的に1期ごとに新たな計画を立て活動を進めていくべきであると考えている。基本会議委員は、一人でも多くの住民の皆さんに「自らのふるさとを自らの責任で守る意識」を持ってもらえるように伝導役をお願いしたい。1期の後半（2年目）に町民を対象としたフォーラムなどを開催することで、伝導役の役割が果たされるのではないかと考えている。

第3期を進めていただくにあたっては、委員任期や会議開催数に限りがあることを踏まえて、2年で完結する目標を設定、共有していく必要がある。なお、風土フォーラムでの活動は、政策提案等の成果品を目的とするものではないと考えている。ただし、行政が活用できる成果品があった場合には採用させていただく。

国家的課題として、人口減少社会への対応、首都直下地震や南海トラフ地震への備え、気候変動への対応が考えられる。当町においては、人口減少社会及びアフターコロナに対して町がどうしていくべきかが課題である。これらの課題は風土フォーラムでの取り扱いを求めるというものではなく、この状況下に我々がいるということを認識していただきたいものである。2年間の任期の間よろしく願います。

3. 自己紹介

A 委員

第2期より基本会議に参加している。別荘のある軽井沢に年間 50、

60日訪れて、元気をもたらしている。皆さんと活発な意見交換を行い、交流を深められたらよいと思っている。

B委員

第1期より基本会議委員を務めている。軽井沢に別荘を持っているので、7割は軽井沢で生活をしている。よろしくお願いします。

C委員

B委員と同様に1期より基本会議に参加している。「軽井沢サクラソウ会議」という環境保全団体での活動に力を入れている。軽井沢の資産である自然環境を、よりよい形で後世に繋いでいければと思う。

D委員

軽井沢町が防災に関する情報をTwitterやFacebookといったSNS等で発信するようになり、安心できるまちになっていると感じている。

文京区で首都直下型地震対策に関わっているので、軽井沢町でも支援ができると思う。

E委員

前期に引き続き委員を務めさせていただく。成沢区の住民となって13年目になる。町の人権擁護委員を務めており、風土フォーラムPTでは「チームみらいえ」に所属している。

F委員

第2期から委員を務めている。コロナの影響による運動不足を解消するため、最近散歩をするようになった。散歩を通じて自然の豊かさなど軽井沢の良さを改めて感じることができ、こういう環境で生まれる発想はクオリティが高いと感じている。

G委員

2期目から参加している。富山県から移り住んで7年目になる。コロナ禍により風土フォーラムPTの活動もゼロベースで考えていく必要があるとのことであるが、今までの活動を通じて広げたネットワークを活用し、先を見据えて取り組んでいきたい。

H委員

基本会議に参加できることに感謝する。東日本大震災をきっかけに

東北の被災地支援を経験してきた。まちづくりに対しても、他人事とせず自ら飛び込んでいくことが重要であると考えている。

町民目線での意見しか言えないが、皆さんと一緒に軽井沢の風土を良くしていければと思う。

I 委員

追分に東京都台東区の小学校の保養所があり、小学5年生のときの林間学校として訪問した時が初めての軽井沢だった。現在、軽井沢に別荘を所有して21年目になる。風土フォーラムに参加し、別荘所有者に関する調査などについて議論できればと考えている。

J 委員

総合政策課（課長）に所属しており、前期に引き続き委員を務めさせていただく。委員経験は1年3か月程度ではあるが、公人としての意見、個人としての意見を伝えていきたい。

K 委員

総合政策課企画調整係に所属しており、統計に関する業務を担当している。前期途中から委員として参加しているが、今期もよろしくお願ひしたい。

L 委員

環境課自然環境係に所属している。保健休養地としての軽井沢を守り、素晴らしいまちにしていくため日々業務に取り組んでいる。基本会議を通じて、皆さんと意見交換を行っていききたいと思っている。

M 委員

地域整備課道路河川係に所属しており、主に町の道や河川を整備する業務を行っている。二酸化炭素排出抑制を目的とした融雪施設の改修工事にも携わり、CO2 排出という課題にも取り組んでいる。1期2年よろしくお願ひしたい。

N 委員

観光経済課農林振興係に所属しており、森林環境譲与税を活用し、町の森林をどのように整備すべきかの業務に携わっている。任期2年間よろしくお願ひする。

4. 会長・副会長等選任

会長：石山 武 委員 副会長：森 憲之 委員 ※拍手多数により承認

5. 議 事

(1) 今期方針案について

【意見交換】(発言順)

会 長

2020年度の基本会議を進めていくにあたり、私案として「with コロナ/after コロナ時代のまちづくり～新しい暮らし方・働き方変革と見直し～」を全体コンセプトとして考えている。コロナ禍により社会に大きな変革がもたらされ、テレワークやオンライン授業の普及によりデジタル社会に向けて加速している。また、大都市への集中から分散という流れが生まれており、地方の存在感が大きくなっている。これを契機に感染防止策を講じながらコロナと生きていくこと、コロナ後を見通したまちづくりが必要なのではないか。

軽井沢の雄大な自然や清涼な気候、明治時代の伝統的な歴史、文化的価値を再認識し、新しい軽井沢の価値を見出せるよう基本会議で議論や提言を行っていききたい。

I 委員

別荘利用者の高齢化、若年化などについて実態を把握したい。また、時代によって変化する別荘ニーズについても調査したいと考えている。

ヨーロッパ等ではコミュニティがICTを活用して住みやすい地域をつくっている。軽井沢元来の良さに様々な特性をプラスして軽井沢らしさについて考えていければと思う。

F 委員

会長から示されたコンセプト案には賛成である。基本会議は軽井沢グランドデザインを基に風土自治の理念を広めていくことが役割だと考えている。そのため、テレワークや多拠点居住を大きなテーマとして掲げた場合、議論が広がりすぎてしまうのではないかとと思う。グランドデザインをベースに議論していくべきではないかと考える。

E 委員

将来を見通す際のベースとなるのは人口動態だと考えている。ワーキンググループを設け、人口動態について調査・研究を行い、地域マーケティングを考える活動等につなげたい。様々な統計データを情報化、メッセージに変換して発信していければと思う。

D 委員

町民以外の人口動態を知ることにより、災害時における被災者数の把握が可能になることから人口統計は重要だと感じる。ガス、水道、携帯キャリア等の事業者が所有しているデータが、災害時において誰一人取り残さない軽井沢をつくるための基礎になるのではないかと。

ウィズコロナという点では、軽井沢町から感染者が出ても問題がないように対策しておく必要がある。町内ホテルと町が提携し、ホテルでの検査体制整備や感染者を受け入れる仕組みができればよいのではないかと。(行政と官民の連携)

町内に別荘を持つ東京都の医療従事者が、軽井沢に来ても買い物等を我慢している状況は大変残念に思う。医療の最前線で頑張っている方たちが、安心して軽井沢で過ごせるように環境整備を行うことが最高のおもてなしにならないかと。

基本会議でしか扱わないようなテーマで進めたい。また、短期間で終了するPTがあってもよいのではないかと。

町 長

(F委員の意見に対して) 軽井沢ランドデザインには、風土をデザインする3つの領域として「地域社会をデザインする」「環境をデザインする」「創造活動をデザインする」が示されている。ウィズコロナ、アフターコロナを踏まえて、軽井沢の将来像について考えていくことは、「地域社会をデザインする」に該当すると思われ、軽井沢ランドデザインとの整合は取れていると考えてる。

C 委員

移住希望の民間アンケートでは、長野県は第2位という結果だった。コロナ禍により軽井沢への移住を検討している人もいると考えられる。

移住相談のために役場庁舎を訪れた方たちが「軽井沢町はコロナの心配はない」と安心感が得られるように、庁舎内の感染症対策を講じることが重要である。

人口動態調査をベースとして別荘利用者のコミュニティを構築していくことが、防災、減災につながると考えている。観光協会や商工会などと連携しながら、軽井沢の在るべき姿について検討していきたい。

G委員

日本が世界と比較して新型コロナウイルス感染者数が少ないのは、公衆衛生環境が清潔に保たれているからではないかと感じている。ゴミ問題についてはSDGsでも掲げられており、町をあげての地球を守るための取り組みや、マイ箸やマイボトルの推進PRが必要だと思う。軽井沢らしいゴミ削減に関する活動について考えていければよいと思う。

H委員

人口動態の把握は重要なことであり、防災にもつながるものと認識している。

町内には「軽井沢町を良くしていこう」と考えている有志グループが数多く存在している。各団体の考えを行政、民間を含めて融合していければ、より良いまちづくりにつながると考えている。ただ、どのように集約していくのかが課題である。

軽井沢でしか味わえない環境や人とのつながりがある住みやすいまちづくりについて考えていければと思う。

B委員

コロナ禍により世の中が変わったことを踏まえると、「コロナ」を意識したまちづくりが必要になる。企業ではリスク分散の機運が高まっており、行政サービスにおいても同様であると考えている。感染症リスクや公衆衛生等を意識したうえで、持続可能な経営、行政サービスについて考えていければと思う。

会 長

各委員からの意見等については、会長、副会長で整理をさせていただきたい。基本会議で取り上げるのか、PTテーマとして活動を進めていく

べきか検討して改めて提案させていただきたい。

※基本会議等にて取り扱うテーマ案について検討を行うため、各委員は必要に応じて関心のあるテーマ等を事務局へ報告することとなった。
(会議終了後、1～2週間以内)

(2) その他

・特になし

6. エリアデザインに関する今年度の方向性

○ファシリテーターより、エリアデザインに関する今年度の方向性について説明

コロナ禍により新軽井沢、中軽井沢エリアでの運営会議が開催できていなかったが、再始動して検討を進めていく。旧軽井沢、追分、南地区エリアについても、今年度より運営会議を立ち上げる予定である。

7. 事務連絡

【第6次長期振興計画について】

○企画調整係長より、第6次長期振興計画について説明

第6次長期振興計画策定にあたり、基本会議にも協力いただきたい。基本構想策定にあたっては、ワーキンググループを4部門程度立ち上げ、各グループに1名ずつ基本会議委員に参加していただくことを想定している。基本会議にて経過報告させていただく予定。

※事業内容がある程度固まり次第、長期振興計画策定に係る基本会議の立ち位置等を示すこととなった。

【まちづくり活動支援部会及び庁舎改築周辺整備事業検討委員会における委員選出について】

○事務局より、まちづくり活動支援部会等の委員選出について説明

まちづくり活動支援部会、庁舎改築周辺整備事業検討委員会におけ

る委員の選出を行う。会長と相談のうえ委員候補を選出し、候補者に連絡させていただくこととしたい。

【第3期基本会議会長あいさつ】

この状況下の中、基本会議をスタートすることができ、本日も多くの意見をいただけた。この会議を通じて、軽井沢の在るべき姿を真剣に考え、議論していくことが現在の難局を乗り越えていく力になると思っている。今後ともよろしく願います。

8. 閉 会